

所 報

たまじむ

平成 26 年 2 月 26 日

第 3 号

東京都多摩教育事務所

〔東京都立川市錦町 6-3-1〕

Tel 042-524-7137

Fax 042-528-0985

ある中学生の変容

指導課長 儘田 文雄

ある中学 3 年生の話です。

彼は、母親と二人暮らし。週末、家に帰らないばかりか、ここ 3 か月間、学校にほとんど通っていません。同じ中学校の卒業生たちと、昼夜、行動を共にしていたのです。ときどき学校に来ては授業を妨害し、教師を困らせていました。

ある夜、その彼が職員室を訪れます。担任に「ちょっと話がある」と言うのです。相談室に入るやいなや、彼は興奮気味に語り始めました。

「俺は今日、東北から帰ってきた。東日本大震災の被災地に行き、ボランティアをした。俺がやったことと言えば単純で、斜めになっている家具をまっすぐにしたり、水の入ったバケツを両手に持って、何度も運んだりしただけだ。でも、じいちゃんとかあちゃんは、泣いて喜んでくれた。俺なんか、何の役にも立たないと思っていたのに……。」

ひとしきり話し終えた彼は、相談室をあとにしました。

翌日から、彼は学校に来るようになります。遅刻はするものの、休まず通い続けたある日、担任にこう告げます。

「先生、俺、高校に行きたい。」

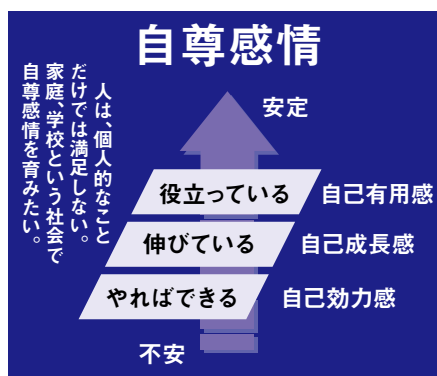
その後、彼は定時制高校に合格しました。昼は働きながら、通い続けているそうです。

「やればできる」、「伸びている」、「役立っている」という自覚が、人の心を不安から安定に向かわせます。私もこれまで、職場が変わるたびに、「ここで本当にやっていけるか」と不安になりました。しかし、周囲の方々に支えられながら日々の業務に当たるうち、どうにか自分もやればできるかもしれない、と思うようになり、心は安定に向かいました。

中学 3 年生の彼は、上の図のような「やればできる」、「伸びている」、「役立っている」という<階段>を上ったわけではありません。自分が母親をはじめ周囲に迷惑をかけていることを痛いほど分かっていた彼は、「どうせ俺なんか、いない方がいいんだ」と思い続けていたのです。その彼が、被災地でのボランティア活動をきっかけにして、自分が人の役に立つことに気付き、自らをかけがえのない存在と捉え始めたのです。週末、彼は、母親のことを手伝うようになりました。

私たち人間は、個人的なことだけでは満足できない存在のようです。学校、家庭、地域という「社会」の中で、自尊感情を育むことが大切です。日々の授業、学校行事、クラブ活動や部活動、地域における行事等——。とりわけ、子供が多くの時間を費やす学級と家庭において、自分の「分担」があり、役立っていることを自覚させることが重要です。

今年度も、残りあとわずか。まずは、係活動を見直してみましょう。全ての係が、学級にとって欠かせないものになっているでしょう。



◇ ◇ 目 次 ◇ ◇

【巻頭言】 ある中学生の変容	1
【特 集】 多摩地区の伝統・文化を生かした学校づくり	2・3
【特 集】 学校・家庭・地域で進めよう、「3ない」運動 — 道徳授業地区公開講座等の「話題源」 —	4・5
【特 集】 社会性を育む学年・学級づくり — 人と関わり、集団をつくる喜びの体得 —	6・7
【特 集】 ただ写すノートから「考えるためのノート」へ — 授業改善につながるノート指導 —	8

◆ 本号は東京都多摩教育事務所ホームページからダウンロードすることができます。（提供するファイルはPDFファイルのデータです。）
 ◆ 御希望の方は、東京都多摩教育事務所指導課のホームページにアクセスしてください。 <http://www.tamajimu.metro.tokyo.jp/>

多摩地区の伝統・文化を生かした学校づくり

- ◆ 子供一人一人にこれからの社会を生き抜く力を育むためには、各学校が子供や地域の実態等を十分に踏まえ、**創意工夫を生かした特色ある教育活動**を展開することが重要です。
- ◆ 一方、子供たちをめぐる問題として、郷土に対する愛着や誇りの不足、地域への帰属意識の低下、規範意識や公共心等、社会の形成者としての基本的資質の未発達といったことが、指摘されています。これらの要因として、学校はもとより、**家庭や地域において伝統・文化を学ぶ機会が減少**している現状があります。

カリキュラム

課 題

- ① 特色ある教育活動が年々刷新され、学校の特色化が思うように進まない。
- ② 体験を伴う学習や外部人材、施設等を活用した学習が、その場限りのものになりがちで、育てたい態度や能力が十分に定着しない。
- ③ 各教科等において関わりのある指導内容について、有機的な関連を図らずに取り扱っているため、学習が深まらない。

解決の視点

1 長期展望に立った経営

地域に根差した伝統や文化を取り入れた教育活動を学校経営計画に位置付け、地域の賛同を得ながら、長期の見通しをもって推進する。

2 社会を生き抜く力の育成

子供たちが、伝統や文化の背景や意義について考え、実生活にどう生かしていくかを判断し、自分の言葉で表現し学び合うことを通して、自ら課題を発見し解決する力、他者と協働するためのコミュニケーション能力、物事を多様な観点から論理的に考察する力などを育む。

3 合科的・関連的な指導、道徳教育の充実

相互に関わりのある指導内容について、合科的・関連的な指導を行うとともに、道徳の時間との関連を重視し、育てたい態度や能力がより発展的・調和的に身に付くようにする。

学校の特色化の推進

ねらい

各学校が、多摩地区の伝統・文化を生かした学校づくりを推進することにより、地域との連携・協力を一層密にし、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開して、子供たちにこれからの社会を生き抜く資質・能力を育む。

目指す 子供像

- ① 多摩地区の伝統・文化の価値を理解し、誇りに思える子供
- ② 多摩地区の伝統・文化を世界に発信できる資質や能力をもった子供
- ③ 他国の伝統や文化を理解し尊重するとともに、互いに文化交流できる子供

期待される効果

◆ 子供が変わる

- ・ 郷土に対する愛着の深化
- ・ 学習意欲の向上
- ・ 豊かな心の育成

◆ 教員が変わる

- ・ カリキュラムの編成・実施に係る能力向上
- ・ 地域理解の深化
- ・ 地域の人々との関係強化

◆ 授業が変わる

- ・ 合科的・関連的な指導の充実
- ・ 体験的な学習の充実
- ・ 外部人材や施設等の活用促進

◆ 学校、家庭、地域の変化

- ・ 協力関係の一層の深化

組織運営

課 題

- ① 特色ある教育活動の推進が、一部の教師に委ねられており、全教師が主体的に携わる組織的な取組になっていない。
- ② 学校の閉鎖性が、教育問題の発見や適切な対応を妨げている。そのため、学校や教師に対する社会的な信頼を低下させている。
- ③ 地域との連携が、学校からの一方的な働き掛けに終始し、継続・発展した取組になりにくい。

解決の視点

1 協同体制の確立

各学年の発達段階に即して、組織的・系統的に指導する。そのため、全教師の意思を教育活動の目標達成へと統合するとともに、コミュニケーションを密にし、組織を活性化する。

2 開かれた経営

伝統や文化に関する教育には、地域の人々との協力が不可欠である。専門的な知識・技能をもった地域の人々を校内研修に招いたり、教師が地域で調査研究等を行ったりすることで、一層開かれた経営が実現する。

3 地域との真の連携

伝統や文化を次代の子供たちが引き継ぎ、発展させていくことは、地域の願いでもある。学校教育の中で計画的に取り扱い、特色化の柱にすることで、学校・地域双方にとってメリットのある真の連携が実現する。

地域との協同体制の強化

本特集の活用例 ○ 特色ある学校づくりに係る資料 ○ 地域の伝統・文化を生かした教育の推進に係る資料 ○ 子供たちの地域に対する愛着や理解を深める教育の推進に係る資料 など

〈参考資料〉 ○ 「日本の伝統・文化理解教育入門」（東京都教育委員会 平成18年3月） ○ 「日本の伝統・文化理解教育推進会議報告書」（東京都教育委員会 平成18年12月） ○ 「日本の伝統・文化理解教育の推進」（東京都教育委員会 平成20年12月） ○ 「日本の伝統・文化理解教育の一層の充実に向けて」（東京都教育委員会 平成22年3月） ○ 「日本教育」（日本教育会 平成23年12月） ○ 小学校学習指導要領（文部科学省 平成20年3月） ○ 中学校学習指導要領（文部科学省 平成22年10月一部改正）

学校・家庭・地域で進めよう、「3ない」運動 ― 道徳授業地区公開講座等の「話題源」 ―

- ◆ 子供たちは、学校だけでなく、家庭や地域における教育によって育まれるほか、社会の風潮からも影響を受けていま す。社会規範が揺らいでいる今日、道徳教育の充実に当たっては、学校・家庭・地域の連携・協力が不可欠であり、**三者が一体となった取組**を進めていくことが重要です。
- ◆ 多摩教育事務所では、道徳授業地区公開講座等を通して、「**学校・家庭・地域が大切にしたいこと**」として、「**3ない**」運動を提唱しています。先人から引き継がれてきた「**もったいない**」、「**みっともない**」、「**申し訳ない**」という三つの言葉の意味を、私たち大人がもう一度捉え直すとともに、学校・家庭・地域の様々な場面を通して子供たちに呼び掛け、そ の精神を次世代に引き継いでいこうという取組です。
- ◆ 東日本大震災の直後、海外のメディアから我が国に多くの賛辞が寄せられました。逆境における**品位、謙虚さ、忍耐、礼節、自制、思いやり、献身、不屈の精神、連帯、静かなる威厳**、等々……。被災地の人々が特に意識しないで行動したことが、世界から注目されたのです。その根底には、「もったいない」、「みっともない」、「申し訳ない」の精神があります。
- ◆ 本特集が、各学校の**道徳授業地区公開講座**や**地域懇談会**で「**話題源**」として活用され、多摩地区全体で「3ない」運 動が展開されることを願っています。

子供たちの現状

① 子供たちの印象

1 忍耐力がない 57. 0%

2 自己中心的である 44. 6%

3 物を大切にしない 39. 5%

「東京の子供たちの豊かな心の育成に関するアンケート調査」対象:教職員、保護者、一般都民等（東京都教育委員会 平成23年6月）

② 命に対する考え方

「死んだ人は、生き返る」と思っている 15. 5%

「佐世保小6女児殺人事件後の調査」 対象：小4・小6・中2（長崎県教育委員会 平成17年）

③ 最近の子供たちのルールやマナーについて気になること

1 周囲に気兼ねせず大声で話す 62. 0%

2 周囲に気兼ねせずどこにでも座り込む 57. 0%

3 衝動にかられて暴力的な言動をする 44. 6%

4 電車やバスの中で飲食する 39. 5%

「東京の子供たちの豊かな心の育成に関するアンケート調査」対象:教職員、保護者、一般都民等（東京都教育委員会 平成23年6月）

東日本大震災の直後、日本に寄せられた諸外国からの賛辞

A

人々は数本の水を手に入れるために、じっと我慢して整然と何時間も並んでいる。

（アメリカ合衆国、CNN テレビ）

B

日本語には英語にはないガマンという言葉がある。

（アメリカ合衆国、ニューヨークタイムズ紙）

C

驚いたことに、客は誰一人として食い逃げをしないばかりか、全員が店に戻り、各自が並んで支払いを済ませた。

（韓国、中央日報）

D

東京では 混乱する鉄道各駅でも人々が押し合うこともなく、みんなが非常に秩序正しかった。

（台湾、CTS テレビ）

E

他の国ならこうした状況下で簡単に起こり得る混乱や暴力、略奪などの報道が一件もない。

（ロシア、タス通信）

F

どの国も天災があれば、国際的な同情と援助を受け、日本のように敬服され、威信を高める国は珍しい。

（ベトナム、VN エクスプレス）

G

損壊した民家から救い出される際、救助隊員に「不便」をかけたことを謝罪し、他の被災者を気遣った。

（シンガポール、ストレーツタイムズ）

もったいない

◆ 限りあることを知り、大切にする

学 校

・教科等の学習（社会、家庭、道徳など）
・幼児、高齢者と触れ合う活動
・飼育栽培活動 ・時間の厳守
・リサイクル活動 ・エコ活動
・給食 など

命・時間・資源

・飼育、栽培
・時間の厳守
・リサイクル
・食事、節水 ・節電 など

家 庭

・ボランティア活動
・リサイクル活動
・環境保全活動 など

地 域

みっともない

◆ 他者意識をもち、恥 じる

学 校

・教科等の学習（国語、社会、図画 工作、美術、道徳など）
・校外学習（遠足・ 集団宿泊的行事など）
・身だしなみ、言 葉遣い
・後片付け、整理 整頓 など

美意識・公德心

・身だしなみ、言葉遣い
・後片付け、整理整頓 など

家 庭

・公共の場での言動 など

地 域

申し訳ない

◆ 謝罪と感謝の念

学 校

・子供同士、教師及び
地域の人々との関わり

正直・素直・誠実

・家族との関わり

・地域の人々との関わり

家 庭

地 域

社会性を育む学年・学級づくり — 人と関わり、集団をつくる喜びの体得 —

◆ 都市化や少子化の進展、スマートフォンなどの普及により、群れて遊ぶ、友達と語り合うといった人間関係の中で社会性を身に付ける機会が減少しています。社会性の欠如は、今日の子供たちの**問題行動の要因の一つ**です。

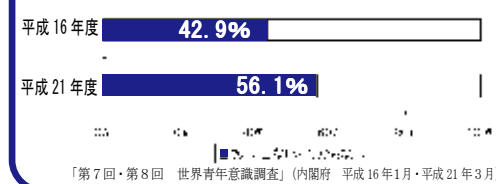
◆ 学校は、子供たちが発達段階に応じて社会の一員としての自覚をもてるよう、**多様な関わり**の機会や**場を設ける**ことが重要です。そのため、学級をはじめとする**集団生活**の中で**対人関係の在り方**を学び、**自己の役割**を果たしながら**自らのよさ**を発揮できるよう、指導していく必要があります。

社会生活の体験

○ 元来、学校は子供たちが社会生活を模擬的に学ぶ場で、**地域行事への参加、ボランティア活動、職場体験活動等**の体験を通して、自分が社会の中で生きているという実感をもち、**地域との関わりを深め、そこでの役割を果たす喜び**を体得させることが必要です。

Q 体験活動を通して気付いたことを振り返り、まとめたり、発表し合ったりする活動を重視していますか？

視点 ボランティア活動に興味がある



事例 「下級生へのメッセージ」

- 卒業を考えた最上級生が、学校や地域の生活をより快適にするボランティア活動案・実施し、活動を通して学んだことを下級生に伝える。
- ① 代表委員会が、学校や地域の生活改善に資する活動について提案
 - ② 各学級で、班ごとに活動内容を決定
 - ③ 同じ活動を選んだ班員が集まり、分担や活動の流れを協議
 - ④ 活動を実施し、下級生へのメッセージを作成
 - ⑤ 「卒業を祝う会」等で、下級生にメッセージを発信

◆ その際、基盤となるのは、社会生活を送る上で必要となる**生活習慣**や**規範意識**です。

◆ 子供たちは、地域行事への参加、ボランティア活動、職場体験活動等を通して、地域の人々との関わりを深め、**社会参加の意識**や**社会貢献の喜び**を体得していきます。

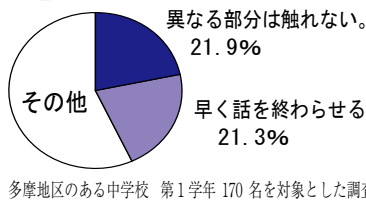
◆ 本特集では、「**規範意識の獲得**」、「**基本的な生活習慣の確立**」、「**対人関係の在り方**」、「**集団生活の体験**」、「**社会生活の体験**」の五つの観点から、社会性を育む学年・学級の事例を紹介します。

対人関係の在り方

○ 対人関係を築く際の基本は、言葉を適切に用いて人間関係を築き、維持していくことにあります。自分とは異なる考え方をもつ他者の意見に耳を傾け、その考え方を尊重しつつ、自分の考えを確かな根拠を基に適切に表現し合う対話の力を育む必要があります。

Q 各教科等において、子供たちに対話の重要性に気付かせていますか？

視点 意見が異なる相手との話し合い



事例 「対話の学習指導」

○ ものの見方や考え方が異なる相手との対話の学習を行い、その大切さを実感させる。

- 1 話題との出会い
- 2 自己の考えの形成
- 3 考えの交流（話し合い）
- 4 自己の考えの再構築

対話の学習過程を丁寧に指導する。その際、子供が安心して話せる受容的な環境を整える。

（参照：所報「たまじむ 平成25年度第2号」）

学校教育で育む社会性

集団において、自分の役割や責任を果たし、他者と協力して課題を解決するために必要な能力や態度

五つの観点

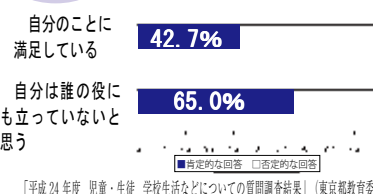
社会生活
対人関係
生活習慣
集団生活
規範意識

集団生活の体験

○ 集団の一員としてよりよく生きていくためには、集団の意義を十分に理解させることが大切です。そのため、学年や学級の活動に積極的に参加し、自分の役割と責任を果たすとともに、**成員相互の関わり**の大切さや、協力して目標を達成することのよさに気付かせることが必要です。

Q 学級の全ての係活動が子供たちにとって必須のものになっていますか？

視点 自尊感情



事例 「学級総会で認め合う」

○ 自分たちで学級を形成していく態度を育成するとともに、各自が役割と責任を果たし、その努力と成果を認め合うことを通して、自尊感情を高める。

年間3回の実施

- ① 4月…各係・当番活動のねらいと内容の確認
- ② 10月…中間評価
- ③ 3月…年度末評価

基本的な生活習慣の確立

○ 他の人との関わりにおける習慣及び集団生活を送る上で必要な習慣を形成することが大切です。挨拶や返事、言葉遣い、態度や動作、時間の厳守などについて、自分も相手も気持ちよく感じられる体験を数多くさせながら、繰り返し指導して身に付けさせることが必要です。

Q 教師が率先して子供と挨拶を交わしていますか？

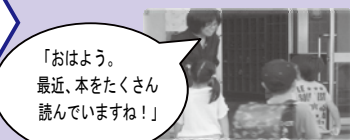
視点 挨拶

<子供たちの印象>	<大人が心掛けるべきこと>
挨拶をしない	率先して子供に挨拶をする
26.6%	75.6%

〔東京の子供たちの豊かな心の育成に関するアンケート調査〕
対象：教職員、保護者、一般市民等（東京都教育委員会 平成23年6月）

事例 教師による「挨拶プラス一言運動」

○ 教師自ら挨拶し、子供の共感を呼び、意欲を高める言葉掛けを行う。



「おはよう。
最近、本をたくさん
読んでいますね！」

挨拶言葉に、子供の関心事や頑張っていること、よい点や進歩の状況などに関する一言を添える。

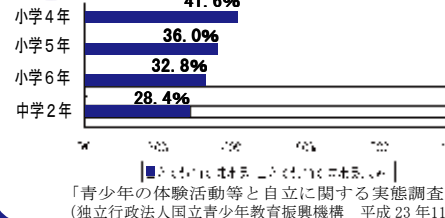
（参照：所報「たまじむ 平成25年度第2号」）

規範意識の獲得

○ 集団のきまりや基本的なモラルなどの倫理観を育むためには、全教師が同一歩調で毅然と指導に当たることが重要です。また、諸問題の解決策を話し合ったり、きまりをつくったりする活動を通して、自分たちで決めたことは、互いに注意し合いながら、みんなで守っていく意識を高めることが必要です。

Q 子供たちが、学年や学級の生活を楽しく過ごせるよう、集団のきまりをつくらせていますか？

視点 ルールを守って行動している



事例 「自分たちでルールを作って守る」

○ 子供たちがルールを作り、それを基に行動し、評価・改善を行う。自ら決めたルールを守り、行動することのよさを実感させる。

- ① 各学年の代表委員が学年のルール及び行動指針を提案
- ② 学級会で、ルール及び行動指針を協議
- ③ 各学級の意見を基に、学年のルール及び行動指針を決定
- ④ 学期末ごと、学級会でルール及び行動指針が守れているか評価
- ⑤ 年度末、学年集会で各学級から報告・協議

本特集の活用例 ○ 校内研修の資料 ○ 生活指導部会の資料 ○ 道徳授業地区公開講座の資料 など

〔参考資料〕 ○ 「社会性の基礎」を育む「交流活動」・「体験活動」（国立教育政策研究所 平成16年3月） ○ 小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編（文部科学省 平成20年8月） ○ 小学校学習指導要領解説 特別活動編（文部科学省 平成20年8月） ○ 青少年の体験活動等と自立に関する実態調査（独立行政法人国立青少年教育振興機構 平成23年11月） ○ 東京の子供たちの豊かな心の育成に関するアンケート調査（東京都教育委員会 平成23年6月） ○ 平成24年度児童・生徒学校生活などについての質問調査結果（東京都教育委員会） ○ 第7回・8回世界青年意識調査（内閣府 平成16年1月・平成21年3月）

